

高知大学演習林の近況（令和元年度）

7月7日に、「第12回高知大学演習林トレイルラン2019」が、今年も最大人数の270人の参加のもと盛会にて実施された。運営ボランティアには学内および卒業生のほか、学外の方々も多く加わっていただけるようになり、地域の行事として根付いてきていることが伺われる。翌週の夏の演習林実習では、怪我人搬送の際に、怪我をした学生本人が保険証不携帯であったことや休日であったことなどから、治療自体は適切に行うことができたが関連の対応に時間がかかることとなった事例があった。演習林に関しては今のところ問題は発生していないが、学内における他分野の実験実習における安全管理体制の統一的な見直しが安全衛生委員会で話題になっていることもあり、演習林実習についても特に2年生2学期の実習開始時に導入指導をきっちり行っていくようにしたいと考えている。

9月2～5日には全演協公開森林実習を実施した。例年、中国四国地区の農学系7大学の協定で行っている「中国・四国地区大学間連携フィールド演習」との併催で定員20名としているが、今年度は北海道大学教育関係共同利用拠点事業の「第6回森林フィールド講座 四国編」とも共催として定員を10名増加して受講生を募集したところ、全演協3名、中四国20名、北大拠点6名の合計29名の応募があり、これまでになく盛況の開催となった。公開森林実習は長年、前任者の塚本次郎教授（現名誉教授）により森林生態学（林分調査）をテーマとして実施されきたが、昨年度から演習林担当教員全員が担当しメニューも拡充している。

初日は地域林業をテーマとして「ぼうむ合同会社」にて嶺北地域の林業家との意見交換を行い、夕方は演習林宿舎でバーベキューの懇親会により受講生とスタッフ間の親睦を深めた。2日目は森林空間情報をテーマとして演習林の林分に調査プロットを設定する実習を行った。3日目は森林生態学をテーマとして林分および植生調査、さらに試料木を伐採してバイオマス量の調査を実施した。本来はこの日に人工的な植生遷移をテーマとして野焼きを実施する予定であったが、急な雨により予定地の見学と遷移の説明に内容を切り替えた。2日目と3日目の夕方にはアカデミックアワーとして、北大拠点連携校（北大・山形大・筑波大・琉球大）から参加の教職員による研究や所属大学演習林の取組みなどの紹介を行い、受講生は班毎に翌日のプレゼンテーションの準備を進めた。4日目の最終日は午前中に宿舎にて実習で学んだことを発表するプレゼンテーションの後、午後は高知県立牧野植物園を見学し、高知駅で無事終了・解散となった。遠路ご参加いただいた受講生および北大拠点連携校スタッフの方々にこの場を借りてお礼申し上げる。

（森林生産環境部門長 鈴木保志）



写真1 演習林での林分調査等の実習



写真2 牧野植物園でのガイドによる説明